# 令和　　6年度　　園評価書

園番号　　48　園名　辻こども園

## Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

| 1　教育・保育目標 | 2　重点目標 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策（来年度の具体的な取組目標等） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 心身ともに元気な子 | うれしい・たのしい・だいすき<br>～十人十色の輝くらしさ～ | 自分なりに繰り返し試したり、工夫したりして遊べるように関わっている | ・保育者が遊びをすべて用意したり、遊びやすくしすぎるのではなく、一人一人の楽しいポイント（興味、関心、何を楽しんでいるか）を読み取り、関わろうとしている。年齢や発達に合わせた素材や道具を準備し、子どもが考えながら選んで遊べるよう環境を整えている | A | A | ・子ども達が自分のやりたいことを、ヒト、コト、モノとかかわり職員が支えながら行っていることが良くわかる<br><br>・遊びを通しての教育・保育だと思うが一つの遊びをとってみても、行事や仲間、体を動かすなどいろいろなこととのつながりが見られる | ・子どもがより安心して遊べる拠点を各クラスにしっかり作る<br>・個人個人が片付けや環境整備への意識を持ち、更に、みんなで共有部分（園庭、ホールなど）の環境を整える時間を設ける<br>・幼児会議、乳児会議（月１回）週案会議（週1回）を定着させ、会議に出ない職員にも共有する<br>・子ども同士の関わりの中で、否定的な関わりをした子どもの思いを聞いていくと共に相手の思いも伝える<br>・クラスに入ってくれる職員に子どもの様子や前日の出来事を担任が必ず伝え、共有する |
| | | 興味を持ったヒト・モノ・コトに自分から関わりが持てるようにしている | ・絵本や図鑑だけでなく、タブレットも活用しながら、子どもが興味を持ったことを逃さずに、環境を再構成している<br>・遊びの中で自然に異年齢と関わることの出来る環境を設定している<br>・保育者自身も環境の一部であることを意識しながら関わっている | A | A | | |
| | | 子どもが安心して自分の思いを言葉やしぐさ、表情で表現できるように関わっている | ・保護者との信頼関係を築きながら、子ども一人一人の思いを肯定的に受け止めたり、言葉で言えない子には代弁してあげたりしてこども一人一人が安心してこども園で過ごせるような丁寧な関わり方を意識している | B | B | | |

## Ⅱ　各領域に関わること

| 大項目 | 中項目 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策（来年度の具体的な取組目標等） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1<br>こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | 一人一人の発達や経験に合わせた適切な援助を行っている | ・一人一人の発達を抑えると共に、生活経験も配慮し援助している。子どもにより、個人差があるため担任間で常に話をし、丁寧に関わっている<br>・フリーの先生には会議報告だけでなく、その都度子どもの様子を伝えることで関わりを統一化している | A | A | ・保育室の掲示が子どもの興味、関心が持てるようにされていて良い。教材も子どもがすぐ手に取れるようになっていて良いと思った<br><br>・毎日活動の記録を写真で知らせてくれるのがとても嬉しい。毎日の楽しみになっていて、可愛い姿に元気をもらっている<br><br>・小学校もアプリを使用している。写真は保護者に伝わりやすい。（保護者、職員も）アプリに慣れていくことが重要になってくる<br><br>・こども園で子どもをみながらの園内研修や情報の共通理解を進めていくことは難しいところがあると思う。他のクラスでの子どもとのかかわり方や援助方法を短時間見に行くだけでも学びになる。気軽にできる園内研修を取り入れたらどうか<br><br>・家庭では親に甘えることが多く、友達とのかかわりや、思いやりを持って行動している姿など、一人一人の子どものよりパーソナルな部分を保護者に共有することを更に意識していただけると嬉しい<br><br>・保護者の方々は、園での子どもの姿をもっと共有してほしいと思っているのではないか<br><br>・辻地区以外から来ているご家庭には地域や近隣校との連携は中々わかりにくいところもあるのではないか<br><br>・S型デイサービスへの訪問は是非来年度もお願いしたい<br><br>・園評価書の自己評価の基準がはっきりしていない。保護者アンケートとリンクさせて基準を明確にしたほうが良いのではないか | ・子どもの様子を共有する時間を月に1度作る<br>・基本的には、担任間で話し合い援助方法を決めていくが、周りの職員からアドバイスをもらえる機会を月に1回作る |
| | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 | 一人一人の家庭状況や生活の流れを把握し、生活の連続性を大切にしながら子どもが安心して過ごせる場を作っている | ・送迎時に保護者から受けた連絡などを職員間で共有し、その日の体調などに合わせて活動を行うよう配慮している。また、今年度は各家庭の保護者と面談をする時間を設け、園での様子や家庭での様子を共有し、保護者も子どもも安心して過ごせるよう工夫している | A | B | | ・会議でその月の子どもの姿や家庭の状況を周知できるよう共有しているが、日々の子どもの様子に関しては、引継ぎ時にしっかり共有していく |
| | (3)環境を通して行う教育及び保育 | 子どもが使いたい素材や道具を選び、継続して遊ぶことができる環境を整えている | 子ども達が今何に興味を持ち、どんなことを楽しんでいるのかを読み取り、次にどうなってほしいのか見通しを持ち環境を準備し、子ども自身が選べるようにしているが、園庭の玩具の片付けや、取っておくもの等の環境が整備されていない様子もある | B | B | | ・週に一度子ども達と一緒に片付けの日を作る<br>・定期的に園庭環境の見直しをする<br>・年度の初めに、玩具のカゴや取っておくためのスペースに写真やマークを付け子どもが使いやすい環境を整える |
| 2<br>安全管理・指導 | (1)事故防止・防災 | 職員一人一人が安全・危機管理の意識を持ち非常時には状況に応じた行動がとれている | ・年間で定期的に様々な想定で訓練を行い、その都度気付いたことや今後に繋げられるようなことを記録し残している。減災教育の指導を受け、避難の仕方を検討し、改善した<br>・ヒヤリハットは随時共有し、安全対策を確認している<br>・経験の浅い職員が多いため災害時対応に不安な部分もある | B | B | | ・危機管理意識を各職員が高められるよう、予告なしの訓練を増やしていく（様々な時間帯・避難場所を想定）<br>・反省、課題点を書面及び口頭で全職員に周知すると共に問題点を話し合い改善していく |
| 3<br>保健管理・指導 | (1)健康教育の充実 | 基本的な生活習慣の自立に向け、個々に応じた援助を丁寧に行っている | ・生活習慣の自立に向け、視覚や言葉、さりげないサポートなど、発達や経験に応じて、個々に合わせた援助をくり返し行っている。また、成長に合わせ子どもに意図を伝えながら、必要性を意識していけるようにしている<br>・毎月食育活動を行い、食事や食材への関心が高まっている | B | A | | ・家庭とも連携しながら、一人一人のペースで自立に向けた取り組みをしていく<br>・経験や家庭環境など個々の持つ背景が様々で、対応が難しい子もいるため、全職員で援助方法を共有する |
| 4<br>特別支援教育・保育 | (1)支援体制づくりの推進 | 一人一人の発達や特性を理解し、その子に合った支援の方法を職員間で共有し対応している | ・一人一人の発達や特性に合わせて支援計画を立てている。日々の保育の中での様子などを担当者会議で共有し、困っている事は一緒に考え、今後の援助方法について話し合っている。担当者会議の内容を職員会議でも話し、全職員に共有している | A | A | | ・特別支援コーディネーターを中心に園内研修を行う<br>・担当者だけでなく、その他の職員とも支援方法を共有したり、アドバイスしあったりできる機会を設ける |
| 5<br>組織運営 | (1)組織体制の充実 | 職員一人一人が自分の役割に責任を持つと共に互いに声を掛け合い協力して教育・保育を行っている | ・分掌リーダーが責任を持ち、前月の会議には企画書を提示し共有するようにした<br>・月初めの会議で各分掌の進捗状況を報告した | A | A | | ・担当でない職員も気にかけ、職員間で協力していく<br>・企画書の記録を細部まで行い次年度に向けての細かなところまで引継ぎ、取り組めるようにする<br>・年度初めに分掌で集まり、担当者を割り振り、進め方を決めておく |
| 6<br>研　修 | (1)研修体制の充実 | 研修テーマに沿った研修を進めるとともに園外の研修に積極的に参加し、個人の専門性を高めている | ・各クラスの日誌に『楽しいポイント』を記し、毎月それぞれのクラスの「楽しいポイント」を写真と共に会議で報告、共有している<br>・会計年度任用職員も他園の公開保育に参加し、学びを自身の保育に活かしている。自園の公開保育では参加できる職員が限られてしまい、会計年度職員の参加が難しい | B | B | | ・一人一回は参加できる体制をいかに作っていくか模索する<br>・公開保育だけでなく、短時間で気軽にどの職員も参加できる園内研修を取り入れる |
| 7<br>教育・保育環境整備 | (1)教育・保育環境の充実 | 「たのしい」を支えるための環境を子どもの発達に合わせ工夫している | ・子ども一人一人の「楽しい」を読み取り共感するために、日々の日誌に「楽しいポイント」を記録している。月末の会議では、「楽しいポイント」に対して工夫したところ、援助などを担任以外の職員にも発信している<br>・保育者自身も子どもと共に楽しむことを大切にしている | B | A | | ・子どもの”楽しい”を叶えるために、その子の発達に合った環境を保育者が考え、用意していく<br>・教材研究や職員の資質向上につながる短時間の園内研修を職員会議の中に取り入れる |
| 8<br>家庭との連携・協力 | (1)家庭教育への支援機能の充実 | 遊びの中で育っている子どもの力や保育者の意図について様々な方法で発信し、子どもの育ちについて保護者と共有している | ・送迎時に具体的な子どもの様子を伝えたり、コドモンでの様々な配信に加え、行事ごとにボードを出したり、写真で様子を伝えている。日々の連絡帳に加え、面談等により、保護者との信頼関係も深まった<br>・アプリに慣れていない職員や保護者は負担感もある | A | A | | ・タブレットの発信と共に口頭でも伝えていく<br>・保護者にコドモンの重要性を再度伝えていく<br>・職員はとにかくタブレットを使い、使用に慣れていく |
| 9<br>近隣の学校との連携 | (1)近隣の園との連携の推進 | 近隣園や近隣校と交流する機会を持ち、情報交換したり連携を図ったりしている | ・西久保交流、横砂とのサッカー教室、辻小学校との交流は連絡を取り合い、スムーズに行うことができた。辻小学校とは、出前授業に来てもらう等交流が増える。また、情報交換をする機会が増えた<br>・年長児だけでなく、２歳児が清水待機児童園まりんとの交流を行い、同年齢との子どもと触れ合う機会を作った | B | B | | ・小学校の行事を把握し積極的に交流を図る。子どもの交流だけでなく職員同士の交流ができるよう積極的にアプローチしていく<br>・交流を行った日のドキュメンテーションを印刷し、回覧することで全職員に発信する |
| １０<br>地域との連携 | (1)信頼される園づくりの推進 | 地域との交流を通し、地域のこども園として親しまれる園になっている | ・はーとぴあでの写真展で季節や子どもの発達に合わせた作品を地域の方に向けて発信した。また、おしゃべりサロンでの地域の乳幼児との関わりを作っただけでなく、辻六区のS型ディサービス訪問を再開し、地域の方との交流を増やし、地域の方に親しまれてきている | B | B | | ・年間行事に入れ込み、子ども達に無理のない範囲でS型デイサービスへの訪問を継続する |